

認知症本人や家族の語りを聴いて、認知症への対応スキルを向上させましょう！

どなたでも受講できる 認知症サポート薬剤師e-ラーニング講座のご案内

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 担当理事 ^{いしかわ}石川 さと子

我が国の認知症患者は平成24年に462万人、10年後の平成37年には約700万人になると予想されています。このような状況を受けて、平成27年1月、厚生労働省より「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」が公表されました。新オレンジプランの7本柱の一つである「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」では、「薬剤師の認知症対応力向上」が明確に掲げられており、薬剤師の活躍が期待されています。

生涯学習委員会とe-ラーニング講座

東京都薬剤師会（以下、都薬）は、社会のニーズに合わせて薬剤師の職能を発揮するための学びの場として、都薬ホームページからe-ラーニング講座を会員の皆様に提供しています。都薬生涯学習委員会では、すでに都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度を立ち上げましたが、薬剤師がさらに地域で活躍するために必要な学びの場を検討し、薬剤師が認知症に関する基本的な知識を学ぶことが喫緊の重要課題であると考えました。厚生労働省が「認知症サポーターキャラバン」事業^{*1}を展開し、認知症の方々を地域全体でサポートする体制作りが始まっている中で、今回、「認知症サポート薬剤師」を目指すe-ラーニング講座のご案内ができることになりました。

体験者の語りを聴いて、薬剤師としての役割について考える

新オレンジプランの7つめの柱に「認知症の人やその家族の視点の重視」があります。薬剤師の日常業務の中でも、認知症の方やその家族の方と接する機会は、今後さらに増えることが予想されます。「視点の重視」というのは「その人の気持ちに寄り添って行動する」ことを示しますが、認知症だけでなく、様々な疾患をもつ患者・家族の方と信頼関係を構築し、相手に寄り添って行動できる医療人になるためには、実際の体験者の語りを聴き、その気持ち、内面を理解しようとする姿勢が大切です。

本講座開講にあたり全面的に協力していただいた「健康と病いの語り デイベックス・ジャパン」は、イギリスで創られているデイベックス [Database of Individual Patient Experiences : DIPEX] の日本版を運営する認定特定非営利活動法人です。現在、デイベックス・ジャパンのホームページ (<http://www.dipex-j.org/>) では、乳がん、前立腺がん、認知症、大腸がん検診などを経験したご本人、ご家族の多くの体験談が「健康と病いの語りデータベース」として映像、文字情報で公開されています。今回は、「認知症本人と家族介護者の語り」(<http://www.dipex-j.org/dementia/>) について、未公開の映像や音声を含めた情報を提供していただきました。

認知症サポート薬剤師e-ラーニング講座の概要

今回のe-ラーニング講座は、7つの講座で構成されており、認知症という疾患の基本的な知識から地域資源まで幅広く学ぶことができます。第3講座の「認知症の臨床」では、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 神経内科医長である金田大太先生に講師をお願いし、他講座の講師は生涯学習委員会委員が務めています。なお、金田先生には、本講座全体の監修にも携わっていただきました。

各講座は約30分で、それぞれのテーマに沿った患者や家族の語りを聴きながら進められていきます。各講座の具体的な内容を表に示しました。ほとんどが認知症患者の家族へのインタビューですが、第4講座、第5講座では患者ご本人が語る自分自身の体験も紹介されています。それぞれの語りは、まず背景情

報を紹介してから映像を視聴後、再びポイントになる部分を講師とともに振り返るという流れ（図）で構成されています。

どなたでも受講できます

今回の「認知症サポート薬剤師e-ラーニング講座」は、禁煙支援薬剤師講座や都薬ホームページ会員向けサイトで公開されている体験講座と同じシステムで作成しました。しかし、これまでと異なり、都薬会員だけでなく、興味をもたれた方すべてに受講していただけるように、現在準備を進めています。受講料や登録は不要です。認知症患者、家族の方々を地域全体で支えるため、会員でない方にもぜひ受講をお勧めください。

さらに学びを深めるために

都薬生涯学習委員会では、e-ラーニング講座を修了され、さらに深く学びたい方を対象

表 東京都薬剤師会 認知症サポート薬剤師e-ラーニング講座の内容

一般目標：くすりの専門家として認知症患者の質の高い薬物療法に貢献するのみならず、街の健康相談窓口として早期発見や家族の相談にも応じ、適切な対応をとることができる。

<p>第1講座 はじめに</p> <p>1-1. 認知症の現状 1-2. 軽度認知障害の概念と症状 1-3. 行政の取組、国の施策 1-4. 薬剤師に求められる役割</p>	<p>第4講座 認知症に関連する薬剤管理指導</p> <p>4-1. 認知症治療薬の歴史 4-2. 中核症状の薬 4-3. 行動・心理症状（BPSD）に対応する薬 4-4. 患者の症状に合わせた服薬支援</p>
<p>第2講座 認知症への基本的な理解</p> <p>2-1. 認知症の定義 2-2. 健康なもの忘れと病気によるもの忘れ 2-3. 中核症状と行動・心理症状（BPSD） 2-4. 認知症の診断について 2-5. 認知症の症状を呈する主要な疾患</p>	<p>第5講座 本人の思い、家族の思いへの理解</p> <p>5-1. 「個人の尊厳」を考える 5-2. 認知症の経過と本人の思い 5-3. 本人の体験からその思いを理解する 5-4. 家族介護者の心理的ステップ 5-5. 家族の体験からその思いを理解する</p>
<p>第3講座 認知症の臨床</p> <p>3-1. 早期対応の意義 3-2. 薬物療法の実際 3-3. 薬剤師への期待</p>	<p>第6講座 認知症の人との接し方</p> <p>6-1. 行動・心理症状（BPSD）発症の要因 6-2. ケアで変わるBPSD 6-3. ケアの原則</p>
<p>※講師：生涯学習委員会委員（第1,2,4-7講座） 金田大太先生（第3講座）</p>	<p>第7講座 薬局薬剤師が知っておくべき地域資源</p> <p>7-1. 地域包括支援センターの役割 7-2. 活用できる公的資源・地域資源 7-3. 連携の進め方</p>



図 各講座で「認知症の語り」を聴く流れ (実際は中央スライドが映像)

として、半日のスクーリングを来年1月に開催します。このスクーリングは、第3講座をご担当いただいた金田太太先生、ディベックス・ジャパン理事の後藤恵子氏にもご参加いただき、自分だけでなく他者と意見を交換することで、よりよい解決策を考える内容になるように現在企画中です。さらに「認知症サポーターキャラバン」事業の「認知症サポーター養成講座」*2になるように準備を進めています。e-ラーニング講座およびスクーリングの両方を修了された方は、認知症サポーターとして認められますのでその場でオレンジリング*3を授与する予定です。

スクーリングの詳細については後日改めてご案内します。多くの薬剤師が薬剤師としての職能を最大限に発揮し、地域を支えることができるように、是非この講座を積極的に活用していただき、一緒に学んでいきましょう。

- * 1 「認知症サポーターキャラバン」事業：「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環として、厚生労働省が実施している事業で、全国で「認知症サポーター」を養成することによって、全国が認知症になっても安心して暮らせるまちになることを目的としています。認知症サポーターは医療関係者に限らず、認知症の人や家族を支援する応援者であり、平成27年3月末日で600万人以上が誕生しています。http://www.caravanmate.com
- * 2 認知症サポーター養成講座：キャラバン・メイトと呼ばれる講師役と市区町村等が協働して開催します。キャラバン・メイトは所定の研修を受講して登録された方々です。
- * 3 オレンジリング：認知症サポーターの印である「オレンジ色のプレスレット」のことを指します。